

研究成果展開事業
大学発新産業創出プログラム(START) 大学・エコシステム推進型
スタートアップ・エコシステム形成支援

エコシステム促進費 中間報告書

「価値検証フィールドワーク・ユニット」

2024 年 12 月 13 日

I. ユニット名、リーダー機関、メンバー機関 等

ユニット名	価値検証フィールドワーク・ユニット
リーダー機関	宮城大学
メンバー機関	東北大学、新潟大学、京都大学、神戸大学
ユニット代表者	宮城大学 事業構想学群 教授 中田 千彦
評価対象の活動期間	2022年4月1日～2024年6月30日

II. 活動概要

本ユニットは「プラットフォームという枠組みを超えて既存のプログラムを繋ぎ、各大学や機関が地域社会の問題解決を通して、未来社会を創る人材を1500人規模で育成する」ことを目標に、ソーシャル・アントレプレナーシップ人材育成プログラムの開発・運営を実施している。オンライン講義・ワークショップを提供する1)アクティブ・ラーニング、1)を補完する2)オンデマンド教材、構想した事業プランを検証する3)価値検証フィールドワーク、の3コンテンツを設計、開発し、2023年度より実施している。効果検証については、2023年度は、獲得・醸成を目指すスキル・マインドをプログラム設計に反映させ、2024年度はルーブリックを用いた達成度評価による効果測定を行うこととしている。受講数については、2023年度は514名(達成率68.5%)、2024年は12月末時点で821名(達成率約54.7%)である。

III. 活動内容と成果

1. 設定した目指す姿への進捗

本ユニットは「プラットフォームという枠組みを超えて既存のプログラムを繋ぎ、各大学や機関が地域社会の問題(社会システムの再構築と地方創生)解決を通して、未来社会を創る人材を1500人規模で育成する。」という目標を置き、知識の獲得に対する欲求を持ち、その知識を社会課題に活かすために自らを理解し、主体的に行動したいと望む大学生・大学院生・高専生・社会人を対象としたプログラム設計・実施を行うものである。それにより、地域の社会解決に自らの意思で対峙し、自らの力で、そして仲間と協力しながら、自らが提案した事業モデルを実行するスキルとマインドセットを兼ね備えた人材を輩出する。

1-1. 目標とする受講者数の内訳(年度・プログラムごと)

本ユニットで掲げた目的の達成に向けて、プログラム受講者の数を以下のように設定した。「プラットフォームという枠組みを超える」ため、プラットフォーム外の受講生の獲得を意識した受講者内訳となっている。

	初年(FY2022)	2年(FY2023)	3年(FY2024)	4年(FY2025)	5年(FY2026)	6年目以降
①アクティブラーニング・プログラム	0(0%)	250	500	500	500	500
②オンデマンド・プログラム	200	450	950	950	950	950
③価値検証・フィールドワーク・プログラム	0	50	50	50	50	50
A計	20(0%)	50(10%)	150(10%)	150(10%)	150(10%)	150(10%)
B計	40(20%)	100(20%)	300(20%)	300(20%)	300(20%)	300(20%)
C計	140(70%)	350(70%)	1050(70%)	1050(70%)	1050(70%)	1050(70%)
合計	200	750	1500	1500	1500	1500

表1 支援終了時点までに目指す年間及び累計の受講者数の目標

・A:リーダー機関が所属するプラットフォームに参画している大学・高専の学生の割合の目標(10%以下等)

・B:リーダー機関・メンバー機関の大学・高専の学生の割合の目標(20%以下等)

・C:PF以外機関の大学・高専の学生の割合の目標

1-2. 「プラットフォームの枠組みを越えた既存のプログラムを繋ぐ」体制

2023年度は、宮崎大学(PARKS)、2024年度は千葉大学(GTIE)および北陸先端科学技術大学院大学(TeSH)の学生・教員がプログラムに参加し、プラットフォームを越えた受講層とその受入体制が構築されている。また、2023年度は「レジリエンス・プログラム」の修了生2名が引き続いてV2Fも受講し、「レジリエンス・プログラム」で創出した防災

関連の事業アイデアで価値検証を実施した。2024年度は、「サステナブル・ガストロミー・プログラム」の開講時期を検討し、同プログラム受講生をV2Fアクティブ・ラーニング・プログラムに参加するよう調整できた。また、価値検証フィールドワークの実施先として福島県三春町を追加して5地域体制とし、多様な学生の事業プラン(ニーズ)に対応できる体制を整備した。あわせて、V2Fのプログラム・リーチ活動の対象として、東北大学の新たな開発プログラムである「(仮)浜通りソーシャルアントレプレナーシッププログラム」を加えることで、アクティブ・ラーニング・プログラム、オンデマンド・プログラム、価値検証フィールドワーク・プログラムへの受講誘導を図ることができた。

1-3. 地域社会の問題解決を通して、未来社会を創る人材の育成

アクティブ・ラーニング・プログラムは、社会が大きく変化する中で対峙すべき「問題」が複雑化していること、そして、問題解決が社会にあたえる「価値」が経済的な価値だけでなく、社会的な価値をも両立しなければならないこと、それらを受講生が学ぶことができるように設計されている。ソーシャル・アントレプレナーシップ人材に対する期待や必要性を認識するとともにケース分析を通して、解決すべき問題が実際に存在する「地域」とは何かについてのインプットを行った。アクティブラーニングの中で行う問題の認識や課題の設定においては、問題を取り巻く政治や政策、環境や技術、人間生活や文化などを意識することが重要である。そのために必要となる知識については、価値検証オンデマンド・プログラムのオンデマンド動画による学習機会を提供している。

1-4. 受講実績について

2022年度～2024年度までの受講数実績推移を下表に示す(*YouTubeでの視聴回数を受講数に読み替えて積算)。

	FY2022	実績	達成率 48.(%)	FY2023	実績	達成率 (%)	FY2024	実績(12/13時 点)	達成率(%)
① 価値検証アクティブ・ラーニング・プログラム	0	0	0	250	64	25.6	500	88	17.6
② 価値検証オンデマンドプログラム	200	52*	26.2	450	449*	99.8	950	709*	74.6
③ 価値検証フィールドワーク・プログラム	0	0	0	50 10チーム	16 5チーム	32.0	50 10チーム	24 6チーム	48.0
A計	20	0	0	50	12	2.0	150	33	22.0
B計	40	0	0	100	39	28.0	300	63	21.0
C計	140	0	0	350	463	132.2	1050	721*	68.7
合計	200	52	26.2	750	514	68.5	1500	821	54.7

2. アントレプレナーシップ人材育成プログラムの内容

当初の計画

- ①アクティブラーニング・プログラム:学部生・大学院生・高専生、社会人等を対象に、オンライン／オフラインで、これまでのアントレプレナーシップ教育プログラムで創出したアイデアをチームで実装するために必要なチームビルディング能力、自己理解と問題解決に対峙する自己の形成のためのコンピテンシーチェックWSを行う。また、事業を自立的に展開進めるためスキルを身につけるために、「事業企画」「顧客コミュニケーション」「事業プロトタイピング」「顧客ニーズの特定」などのビジネス・アーキテクトに重点を置いた講義・ワークショップを行う。
- ②オンデマンド・プログラム:学部生・大学院生・高専生、社会人を対象に、解決アイデアのブラッシュアップにおいて考えるコンテクスト(社会情勢や歴史、文化・習慣など)、そして実装に必要な規制や制限を理解する。具体的には、政治・法規制・経済・技術・環境・文化・人間生活という7つの視点で、実装する社会の脆弱性や期待を読み取る力をオンデマンド講義の受講で醸成する。
- ③価値検証フィールドワーク・プログラム:学部生・大学院生・高専生、社会人を対象に、解決アイデアを実装すべき地域社会に出て、フィールドワークとして提供価値の検証を行う。受講生のテーマと内容に依存する。各フィールドを担当するメンター(教員)が、その検証を支援する。

実施内容

- ① 価値検証アクティブラーニング・プログラム:2023年度は、10月の毎週土曜日の全4回、2024年度は7月13日、20日の全2回で、オンライン講義・ワークショップとして実施した。2024年度は東北大学が担当するソーシャル・アントレプレナーシップに関する導入的講義を実施しV2Fへのリーチ活動とした。
- ② 価値検証オンデマンド・プログラム:「問題と原因を複眼的に観る」ことを学ぶPLETECH動画や、地域で活躍するアントレプレナーの対談取材、振り返り学習のためのアクティブ・ラーニング録画、フィールドワーク先紹介動画やフィールドワーク中の取材映像を含む合計21本の動画を作成し、ウェブサイトにて公開中している。2024年度

は、アクティブ・ラーニングプログラムで提供する内容を切り分けて、「10分でわかる社会起業」と出した短編シリーズ動画10本を新たに公開し、視聴しやすい環境を整備した。

- ③ 価値検証テストマーケティング・フィールドワーク・プログラム: 価値検証のためのフィールドワーク先として、宮城県女川町、新潟県佐渡市、長野県辰野町、兵庫県神戸市に加え、2024年度は福島県三春町の5地域を設定した。2023年度は5チーム16名が、2024年度(12月現在)は6チーム24名が、2泊3日もしくは3泊4日で実施/実施中である。各チームとも、独自に構想・創出した事業プランを元に実施先を調整し、準備した検証項目を持って、現地で活動する団体・アントレプレナーや引率教員による支援を受けながら、計6-10名の取材対象者と各1時間、事業プランおよび事前に準備した質問項目に沿って説明し、それに対する質疑応答・フィードバックを受けた。フィードバックを元に、ブラッシュアップした事業プランのプレゼン動画を作成し、関係者に配信してプログラムを完了することとしている。受講者にとっては、同じ問いに対しても立場や思いが異なる取材対象者が持つ意見の多様さに戸惑いも感じる一方で、自らが提供したい価値とは何かという「価値検証」の意味が理解できた。「問い」に対する意見の多様性と、問題解決者が持つ自分本来の考えやありたい姿との間の葛藤を感じることは、本事業のプログラム設計において意図していたものである。

3. アントレプレナーシップ人材育成プログラムの広報・選考

当初の計画(ユニット及びプログラムの広報) ウェブマーケティング活用によって、想定受講層により訴求するSNSツールやコンテンツ・情報発信方法を選択し、オンラインプログラム説明会兼体験会と合わせて展開することで、受講生確保に努める。また「全国アントレプレナー人材育成プログラム」や中核となる既存プログラムでの宣伝の機会を設けるとともに、受け皿となるプラットフォームの露出を増やすことで受講生確保に努める。今後、実施予定の「全国アントレプレナー人材育成プログラム」や、中核となる既存プログラムの機会を捉えて、受講生に周知・声がけを図り、ユニット受講者用に用意するSNSへの参加を呼びかける。イノベーション教育学会政策共創部会に新たに設置された「プログラム開発・普及分科会(PG分科会)」にてオンラインセミナーを開催し、また同セミナーでの話題提供者としての登壇機会を通じて、スタートアップ拠点形成事業内外から、上述の課題群に関心ある研究者・教育者・実務家等が集うコミュニティの拡大・発展させる。中核となる既存プログラムで構築された受講生ネットワーク・コミュニティや、SlackなどのSNS上ですでに構築されたツールを利用して学生ネットワークを構築する。

(受講生の選抜) ユニット受講生の選抜: エントリーシートにおける受講希望者の動機や事業アイデアの内容、地域バランス等や多様性を考慮して選抜予定。価値検証フィールドワーク・プログラムの選抜: 希望するフィールド先を複数明らかな上、事業アイデアプレゼンの内容を元に50名/10チーム程度を選抜する。その後、受講生/チームの希望と移動負担のバランス、受入れ先のフィールド/現地機関等との調整を踏まえて、フィールドワーク実施先を決定する。

実施内容(ユニット及びプログラムの広報): ウェブマーケティングの活用によって、SNSツールやコンテンツ・情報発信方法を選択し、オンラインプログラム説明会兼体験会と合わせて情報発信を実施した。「全国アントレプレナー人材育成プログラム」ウェブサイトにはバナー掲載宣伝を実施した。中核となる既存プログラムで構築された受講生ネットワーク・コミュニティや、SlackなどのSNS上の学生ネットワークへの宣伝を実施した。PG分科会にて本プログラムを宣伝した。また、宮城大学のプログラム受講生を広報担当SAとして雇用し、学生目線でのSNS情報発信を展開した。すでに地域コミュニティに入って活動している学生への取材を実施し、大学のアントレプレナーシップ教育等に対するニーズ探索を行うとともに、彼ら彼女らが有するネットワークを巻き込んだアントレプレナー学生ネットワーク構築を企画した。

(受講生の選抜): アクティブ・ラーニング修了生の中の希望者から、事業アイデアの内容、地域バランス等や多様性を考慮してチームを選抜した。また、フィールドワークから直接参加できるパスを整備するために、教員ネットワーク内での告知を通じて応募してきたチームを選抜した。

4. 学生・教職員等のネットワーク構築

当初の計画(教員ネットワーク構築): 上述のPG分科会にて、アントレプレナーシップ教育現場の諸課題に関心ある研究者・教育者・実務家等が集うコミュニティの拡大・発展させる。また、プログラム説明会兼体験会に参加した大学教員等に対する宣伝・営業活動も行い、上記コミュニティの拡大・発展に繋げる。(学生ネットワーク構築) 文部科学省「全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム」、START(東北PF)「社会レジリエンス・プログラム」、START(関西PF)「テクノロジー・レジリエンス・プログラム」・「サステナブル・ガストロノミー・プログラム」などのプログラムで構築された受講生コミュニティや、SlackなどのSNS上ですでに構築されたツールを利用して学生ネットワークを構築する。また地域コミュニティに入って活動している学生への取材を実施し、大学のアントレプレナーシップ教育等に対するニーズ探索を行うとともに、彼ら彼女らが有するネットワークも巻き込んだ学生ネットワーク構築を試みる。

実施内容:教員ネットワーク構築については、上述のPG分科会にて、2023年10月から2024年12月までオンラインのセミナーを通算8回開催した。23023年度は「地域格差」を、2024年度は「アクティブな学生支援の在り方」をテーマに、計8名の教員に登壇いただくことでボトムアップによるネットワークを構築している。また、プログラム説明会兼体験会に参加した大学教員への宣伝活動を通じて、千葉大学・JAISTからの学生・教員参加が決まり、またSTART外の2機関とは、定期的な意見交換を通じて今後の共催開催を検討している。学生ネットワーク構築については、既存プログラムの受講生ネットワーク・コミュニティや、SlackなどのSNS上に構築されたツールを利用して学生ネットワークを構築した。学生団体との繋がりも活用することで、新たな受講層の掘り起こしとネットワーク強化を図る。

5. 支援終了後の自律的な運営の仕組み

当初の計画(教育ノウハウの共有)EDGE-NEXT「レジリエント人材育成プログラム」での社会起業家育成のノウハウをまとめた「ソーシャルイノベーションの教科書」が令和6年3月に刊行予定である。その実績をベースに、本ユニットでのプログラム開発と実施のノウハウをパッケージ化したマニュアルの作成に着手し、構築するコミュニティにおいて、アントレプレナーシップ教育に関わる教職員向けに展開する。

(外部資金の導入と自律化)東北、関西の企業群に本事業での取り組みを紹介し、我々のユニットの目的と内容に共感いただいた企業からの協賛金、社会人のプログラム参加における受講料を基礎資金として、事業終了後の自立・自律化を図る。プログラムの社会的な認知度向上が本プログラムの価値向上やサポーターの獲得に繋がると考えており、積極的な情報発信に取り組む。

実施内容:教育ノウハウの共有については、「ソーシャルイノベーションの教科書」を令和6年3月末に発行し、V2Fのコミュニティにおいて、アントレプレナーシップ教育に関わる教職員向けに波及・活用している。展示会等のイベント(メンテナンス・レジリエンス2024、ぼうさい国体2024in熊本等)にブース出展し、情報発信を行なった。